

札幌市自立支援協議会 好事例集

令和5年3月

編集・発行 札幌市自立支援協議会

SAPPURŌ

はじめに

札幌市自立支援協議会では、平成 18 年に設置されて以来、障がいがある方のさまざまな地域課題解決に取り組んできました。そこで今回、これまでの取り組み成果について見える化し、多くの方にわかりやすく伝え、参考とできるよう、「好事例集」を作成しました。

協議会のプロセス（展開）の視点から、まずは5つの参考となる事例を掲載しており、今後も事例を追加していく予定です。また、プロセスのほかに、参加者の感想やその後の状況なども掲載しています。

この事例集が、協議会をはじめ様々な方が地域課題へ対応するための参考資料となるとともに、多くの方に札幌市自立支援協議会の取り組み成果を知っていただく機会となりましたら幸いです。

最後になりましたが、好事例集の作成にあたって、ご尽力いただきました皆様に改めて感謝申し上げます。

令和5年3月

札幌市自立支援協議会 会長 近藤 尚也

成果：介助アシスタント（No.11）

協議会のプロセス

1 協議会へ課題の報告

- ・車椅子を利用している。学校では保護者が付添っていたが、学校内の移動などを支援してくれるボランティアを探している。学校でも探してくれたが見つからない。（音楽の時間等に他の階の教室へ移動したいが、校内は階段のみでエレベーターが無い）

2 地域課題の抽出

- ・家族の協力だけに頼らないで、障がいのある児童生徒が学校生活を送るための環境整備。

3 地域課題の整理と分析

- ・教育と福祉の連携に係る課題検討会を開催し、学校内での移動を支援するため、教育委員会への「学びのサポーター」の活用拡大の提案について検討した。
- ・当初、当プロジェクトとしては、通学支援と学内支援という大きな枠組みで課題整理を行いました。いずれも福祉というよりは、教育の課題（責任第一）だという認識もありましたが、そこに通う児童がいかに安心して学校生活を送れるか、そのために何か工夫できることはないだろうか？とアイデアを出し合いました。

4 地域課題の解決に向けた取組や成果

- ・教育委員会を含む課題検討会で、有償ボランティアである学びのサポーターに関して平成27年度より、身体介助を専門に行う介助アシスタントを新設。

現在は。。

- ・介助アシスタント及び学びのサポーターは、特別な教育的支援の必要な子どもの学校生活上必要となる支援を行っており、活用を希望する場合には、学校が教育委員会に申請し、教育委員会が活用校を決定しています。令和3年度の活動実績は介助アシスタントの活用校が51校、学びのサポーターの活用校が288校でした。

【介助アシスタント】通常の学級や特別支援学級に在籍する、肢体不自由がある児童・生徒を対象に、教室移動やトイレ、食事等の支援を行います。

【学びのサポーター】通常の学級に在籍する、特別な教育的支援を必要とする児童・生徒を対象に、学習活動等における支援を行います。

感想

- ・メンバーは北海道、札幌市の所管を問わず、学校の種別問わず、教育委員会の事務方に、福祉の現場も入り、毎回、わいわいがやがや議論しました。とある先生が「このメンバーが揃って議論しているのが奇跡だ」と言ってくれたのが忘れられません。その時の課題と、そこに対する強い想い、取り組むメンバーが揃ったことで、課題整理が進んだ事例でした。

成果：事業所バリアフリーアンケート（No.58）

協議会のプロセス

1 協議会へ課題の報告

・麻痺のある方や車椅子を利用している方が、日中活動を希望してもバリアフリー対応の事業所が少ない。他者との交流の意味でも日中活動の利用は有効と思われる。

2 地域課題の抽出

・多目的トイレの数が限られているので、トイレが混み合う。
・バリアフリー物件は、障がい者支援の事業所で貸してもらえないこともある。
・特に就労支援事業所では、肢体不自由者の受け入れが難しい。
⇒バリアフリーの事業所が少ない。

3 地域課題の整理と分析

・事業所のバリアフリーや介助、送迎等についてのアンケート調査を、就労継続支援事業（A型・B型）と就労移行支援事業、地域活動支援センターを対象に実施するために、就労支援推進部会の事業提案チームで検討し、アンケート調査用紙作成。

4 地域課題の解決に向けた取組や成果

・就労支援推進部会が、実施したアンケート調査結果を札幌市のホームページで公表。
<http://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/tiikijiritusien/syurou2.html>

現在は。。。。

その後、このアンケートに関して部会で話題として協議していないので、今後、協議をして、再度同じアンケートを行い、対応できる事業所に変化があるかどうかを明確にしたい。

感想

バリアフリーのアンケートをしたことで、対応できる事業所がどのくらいあるのかが、明確となり、さらに、ホームページに掲載することで、多くの方たちに情報を提供することができた。

成果：性的虐待初期対応（No.74）

協議会のプロセス

1 協議会へ課題の報告

- ・夜間、休日における障がい者虐待の連絡がスムーズになされなかった

2 地域課題の抽出

- ・障がい者への虐待があった場合に備え、速やかに一時保護できる施設を確保
- ・虐待を受けた障がい者への精神的フォローがない
- ・虐待を受けた障がい者に支援者がいない場合の対策を検討

3 地域課題の整理と分析

- ・2015年11月以降まちの課題整理プロジェクトチーム（現在はこのプロジェクトチームの機能を運営会議に戻している）にて継続的に検討。
- ・2016年4月に、性暴力被害者支援センター北海道（さくらこ）を訪問し、意見交換（協議会会長と副会長兼課題提出区部会長、事務局）。教育分野での研修実績があり、障害者支援領域でも、まずは支援者向けの勉強会開催についてさくらこから提案がある。

4 地域課題の解決に向けた取組や成果

- ・2016年12月に、さくらこの方を講師とし、委託相談支援事業所の虐待対応員と区役所職員等を対象とした研修開催（翌年度も同趣旨同内容で開催）。

現在は。。。

- ・緊急一時保護のための事業所と行政の契約
- ・札幌市障がい者虐待防止ネットワークを2016年3月設置
- ・就労支援推進部会定例会で障がい者虐待に関する講義を実施
- ・札幌市主催で障がい者虐待防止研修及び障がい者虐待防止啓発講座を実施
- ・札幌市の出前講座で「障がいのある人への虐待防止」を実施

感想

- ・この課題については初期対応が遅れたのと、課題抽出にある課題が挙げられた。
- ・課題解決に向けて「性暴力被害者支援センター北海道さくらこ」の存在が知れて、また講師に迎え研修開催ができたことがよかったと思います。

成果：はじめての一人暮らしガイドブック (中央区地域部会)

協議会のプロセス

1 協議会へ課題の報告

・一人暮らしを始めようとする方の不安
※中央区地域部会が定期的に（当時は年間9回）開催している定例会で、“しゃべりば”というグループワークを実施し、参加者が困りごとや課題を持ち込んで話すことができる。

2 地域課題の抽出

・住まいに関する課題
※“しゃべりば”の中で解決しきれなかった困りごとや課題は、中央区地域部会の事務局会議で共有され、その後の取り扱いが協議される。この時は住まいに関連する他の課題も同時期に報告されていたため、〈住まいに関する課題〉という大枠の地域課題設定となった。

3 地域課題の整理と分析

・中央区地域部会内に編集委員会という一時的な組織を設置し、宅建協会の協力のもと、賃貸住宅入居について、入居希望者への分かりやすい情報提供
※当初は、貸す側の家主等に障がいについての理解を求めることを想定し、宅建協会（公益社団法人全国宅地建物取引業保証協会）の支部に、課題解決に向けた取組みを相談したところ、借りる側にも困り感があり、借りる側への対応も必要があることを共有する。

4 地域課題の解決に向けた取組や成果

・『はじめての一人暮らしガイドブック』改訂版作成と配布や周知
※宅建協会から既に発行されていた『はじめての一人暮らしガイドブック』を、できるだけ簡単な言葉に置き換えたり、視覚的な分かりやすさを重視して再編集した。

現在は。。。

- ・平成29年に印刷と発行を行った後、令和2年にも増刷して相談機関等に配架しました。
- ・ホームページにもデータを掲載し閲覧が可能です。
札幌市ホームページ ⇒ <https://www.city.sapporo.jp/somu/benri/>
ワン・オールホームページ ⇒ <http://one-all.net/conference/house-proiect/>
- ・『札幌市民便利帳』でも、このガイドブックの周知がされています。

感想

- ・『はじめての一人暮らしガイドブック』の改訂だけでなく、住まいに関わる団体との意見交換会（h30.2.16）にもご参加いただき、宅建協会の方に沢山のご協力をいただき助かりました。
- ・当時、同時期に報告された、不動産屋で障がいをオープンにすると賃貸住宅の契約がしづらくなるという課題については、不動産屋や管理会社、大家等との意見交換会開催も開催できて良かったです。

成果：防災マップ（清田区地域部会）

協議会のプロセス

1 協議会へ課題の報告

- ・身近な資源を知っておく必要性
- ・ガソリンや電源の不足 等

※2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震の被害を受け、これからの備えの振り返りと地域情報の共有やネットワークについて深め、地域資源を知り、災害対応に繋げるため、清田区地域部会で全体会の開催（2019.1.23）がされた際の意見の一部。

2 地域課題の抽出

- ・災害へ向けての備えや地域の情報の共有、事業所間のネットワークの構築並びに整備
- ※事務局会議（現在の運営委員会）で、胆振東部地震の際に必要となった、ガソリンスタンドや公衆電話などの所在地確認及び、区内サービス提供事業所同士の資源（リフト付き車両や発電機等）の融通を想定した地域の把握について話し合いがされた。

3 地域課題の整理と分析

- ・災害への対応を事業者よりアンケートを集め防災に対するノウハウを整理
- ・災害へ向けての備えや地域資源の情報共有並びに整備

※清田区地域部会等で再度研修会を開催（2019.9.18）。研修の事前に、清田区地域部会の構成員に広く呼びかけを行い、各サービス提供事業所等の周辺にある社会資源の地図への落とし込みを依頼した。研修当日は、参加者が3つの地域に分かれて、胆振東部地震発生当時の意見交換と、大きな模造紙サイズの地図を囲んで、様々な資源の場所にシールを貼るワークを行った。

4 地域課題の解決に向けた取組や成果

- ・防災マップを作製。

※福祉事業所、病院、相談支援事業所、コンビニ、ガソリンスタンド、AED、公衆電話、多目的トイレ、避難場所、応急給水拠点等をマップ上に落とし防災マップ上に記載している。

- ・災害への対応を事業者よりアンケートを集め防災状況をまとめた。

現在は。。。。

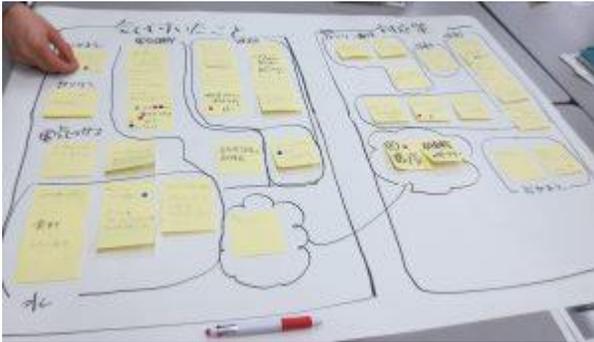
- ・毎年年度当初に、「防災マップ」「事業所マップ」を地域部会事務局にて更新し、ワン・オール（協議会事務局）のホームページに清田区地域部会成果物として掲載している。

⇒ <http://one-all.net/conference/area-kiyota/>

感想

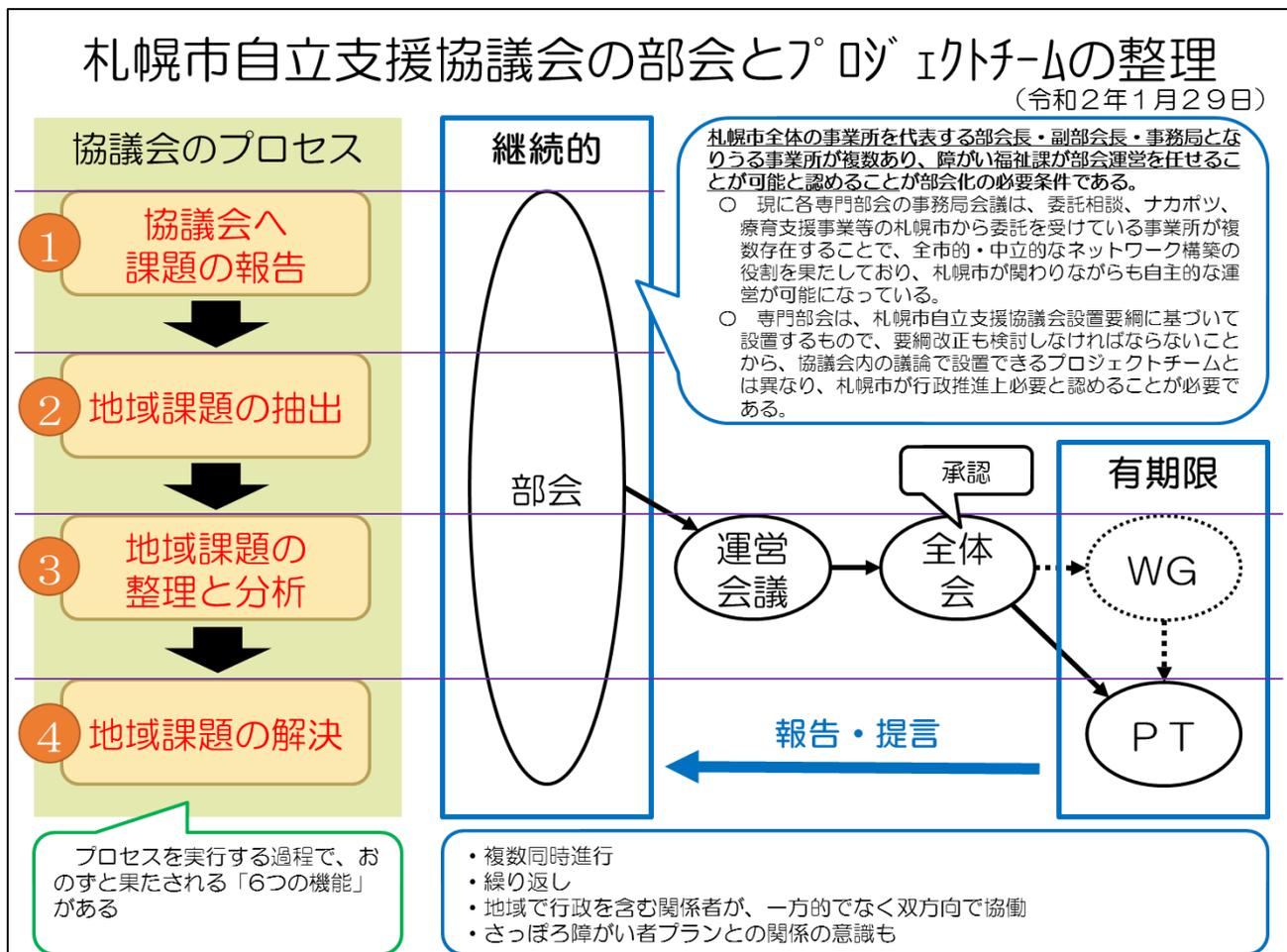
- ・改めて清田区のこと分かった。
- ・知らなかったことが共有できた。
- ・地図について、使用料がかからないフリーの地図素材が無く苦労した。

清田区地域部会全体会（2019年1月23日）の様子



清田区地域部会等研修会（2019年9月18日）の様子





札幌市自立支援協議会では資料 I にもあるとおり、〈協議会のプロセス〉を①～④と整理しています。この好事例集の項目は、その〈協議会のプロセス〉に沿って記載しています。

五つの好事例のうち、「介助アシスタント」と「事業所バリアフリーアンケート」、「性的虐待初期対応」の三つは、〈協議会のプロセス〉の③以降を、市域協議会運営会議に報告・提案し、地域課題の解決（④）に向けた取り組みを、部会と市域協議会が共に行っています。また、「はじめての一人暮らしガイドブック」と「防災マップ」の二つは、〈協議会のプロセス〉の①から④までの全てを部会で行っています。

〈協議会のプロセス〉の①～④で行われるプロセス毎のアクションは、次の資料 II のとおりです。地域課題の整理と分析（③）で検討して設定される取組提案を、課題が報告された部会のみで行うことが難しい場合には、市域協議会運営会議に、地域課題の報告と取組の提案をすることができます。

この好事例集を、13の部会を含む札幌市自立支援協議会の運営に活かしていただき、協議会の活性化に繋げていけるよう、ご協力お願いいたします。

協議会のプロセス	プロセス毎のアクション	札幌市自立支援協議会の場合
① 協議会へ課題の報告	個別事例を基にした ・問題提起 ・困りごとの発信 等	13部会の何れかに報告
② 地域課題の抽出	報告された（または仮説などに基づいた）課題についての ・意見交換 ・地域課題の設定 等	報告された部会での検討
③ 地域課題の整理と分析	抽出された地域課題解決に向けた ・情報収集 ・ 取組提案 ・取組のための場の設定 ・協力者への依頼 ・取組の実行 等	取組提案 を基に、地域課題解決に向けた取組みを、 ・報告された部会で担うのか ・市域の協議会に報告して協力を仰ぐのか
④ 地域課題の解決	取組結果（成果（物））に至る経過の確認	課題整理状況一覧 （市域協議会への報告課題）

札幌市自立支援協議会組織図 (令和4年7月1日)

